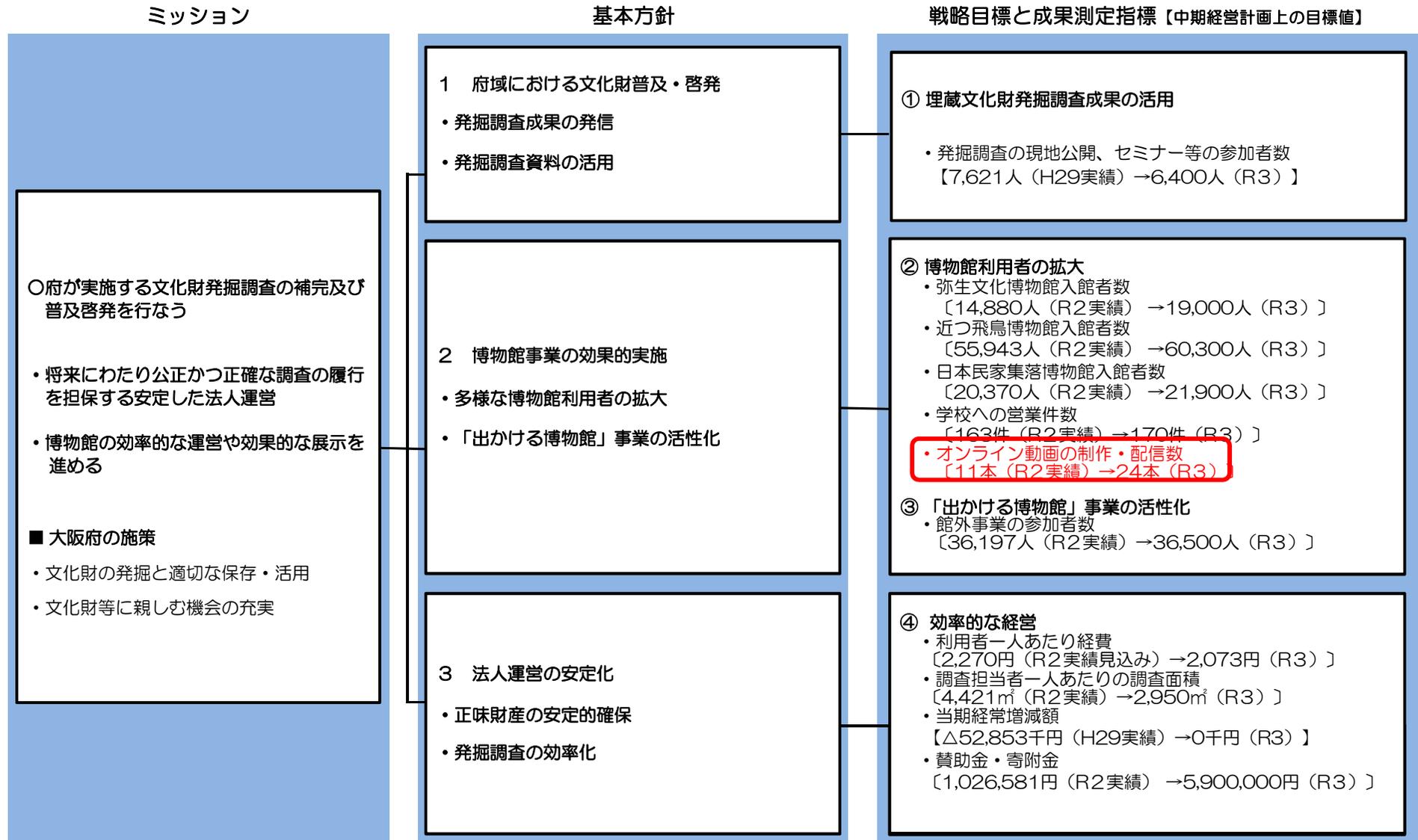


法人名	公益財団法人 大阪府文化財センター
作成（所管課）	文化財保護課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29~R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
						目標値	実績値 [見込値]			R3目標値	最終年度 目標値		
① 埋蔵文化財発掘調査成果の活用	発掘調査の現地公開・セミナー等の参加者数		人	40	12,518	12,600	14,774	14,900	40 ⇒35	6,400	6,400	中期経営計画では、6,400人を目標として策定している。コロナ禍が続くなか、出張展示や連携講演会(講座)を継続的かつ安全に展開するほか、インターネットを活用した調査成果の動画配信を継続して行う。	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>当法人では、平成29年度に策定した中期経営計画のビジョンとして、以下の3本柱を設定している。</p> <p>①【文化財で心を豊かに】⇒「温故知新」で文化力向上 ②【文化財を身近に】⇒ 歴史教育への寄与 ③【新たなステージへ】⇒ 新たな成長への挑戦</p> <p>具体的には、①「文化財を通して、先人の知恵と工夫を学び、これを府民に伝える」、②「博物館管理運営事業や文化財公開活用事業を通して、明日を担う子ども達に歴史を学ぶことの大切さを具体的に伝える」、③「公共事業が減少するなか、市町村・民間の埋蔵文化財調査事業の受託のほか、新たな博物館の指定管理の受託」を目指している。</p> <p>日本では歴史上、天然痘やコレラなどの数々の疫病の災禍を被りながらも、それを克服し、現代に繋がっている。「温故知新」の言葉に表されるように、歴史から学ぶことは少なくない。現代は前時代と比べて、はるかに科学技術が進歩したとはいえ、疫病や自然災害を簡単に止めることはできない。コロナ禍の今だからこそ、文献史料には表れない考古学的な調査成果をはじめとする歴史に学ぶ視座は重要であり、これを府民に伝えることは当法人の使命の一つであると考えている。</p>											<p>発掘調査現場の現地公開の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地説明会の開催 ・YouTube等を活用した調査成果の発信 ・地元学校の見学受け入れ ・地元自治会を対象とした現地公開の開催 <p>発掘調査資料の活用・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府立博物館(指定管理)における調査成果の速報展示および講演会の実施 ・泉佐野市立歴史館いずみさの(指定管理)における展示企画での積極的活用 ・府内自治体と連携した速報展示や講演会等の実施 <p>学校教育との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発掘現場への近隣小学校の見学誘致 ・博物館事業として出前授業の充実 ・高校生の考古学体験の受け入れ ・大学との連携による考古学関連の講義 	
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>課題: 新型コロナウイルス感染症の影響がさらに長引いた場合、現地説明会や講演会などの企画で定員数の制限を継続することが想定されるほか、イベントが実施可能となった場合においても、しばらくは参加者の出足が鈍る可能性が高い。</p> <p>改善点: コロナ禍において、現地説明会などの開催が困難な場合においては、YouTube等を活用して発掘調査成果を継続的に配信するなど、新しい生活様式に則った普及啓発の枠組みを整備する。</p>											<p>民間企業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近鉄文化サロンと連携し、連続講演会を実施 ・ハルカス(近鉄百貨店本店)の「まなぼスタジオ」における子ども向けワークショップの実施 ・文化財見学ツアーの企画 	
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体や民間企業等の関連団体との連携をさらに強固なものとし、当センターがもつ企画力と専門分野をもつ豊富な人材と民間企業がもつ広報力とネットワークを相互に活用し、Win-Winの関係で事業を進める。 ・大阪府の各地に展開する博物館での展示事業等によって地域とのつながりも大切にするが、一般府民が多く集まる市内中心部においても積極的に講演会を行う。 ・百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されたことを受けて、一般府民が少なからず関心を寄せる機会となる状況为好機と捉え、関連自治体とも連携した事業を展開し、当センターならびに博物館の知名度もアップするよう事業を推進する。 ・コロナ禍の影響が長引くなか、当センターが実施する普及啓発事業においても、インターネットでの動画配信など、これまでの方法とは異なる手法で発掘調査成果等の情報発信を行う。 											<p>多様なニーズに合わせた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページなどによる情報発信機能の充実 ・YouTube等による動画配信 ・SNSを活用した情報発信 ・報道提供によるマスメディアによる情報発信 <p>百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府施策への協力 ・関連展示・講演会の実施 	

○ 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度目標設定表

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	目標値		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29~R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項	
						R2 実績値 [見込値]	R2 実績値 [見込値]			R3目標値	最終年度 目標値			
②博物館利用者の拡大	博物館入館者数													
	学校への営業件数(プロセス)		件	3	341	300 ×163		170	3	290	290 *	R2年度実績を踏まえた各博物館の 営業件数目標に基づいて設定	・学校訪問による継続的な誘致活動の実施 ・現場教師を対象とした博物館体験プログラム等の説明 による利用促進。	
	オンライン動画の制作・配信数	☆	件	—	(0)	— (11)		24	5	—	—	R2年度の配信実績ならびに R3年度の事業計画を踏まえて 設定	・学芸員による展示会ならびに各種行事の解 説動画など、オンラインを活用して博物館の情報 を効果的に発信することで、各博物館の魅力 を高め、来館意欲を喚起。	
	i 弥生文化博物館				8	38,310	i 24,500		19,000	8	—	—	H29~R1年度の実績平均に R2年度実績に基づくコロナ禍 による減少率を乗じるととも に、4月25日から5月31日まで の臨時休館を反映して設定。	i ・開館30周年記念特別展・企画展を開催し、広く府 民にPRして来館を誘致。 ・隣接する池上曽根遺跡史跡指定45周年、池上曾 根史跡公園開園20周年記念事業と連携。
							×14,880							
							ii 57,500							
	ii 近つ飛鳥博物館				8	79,265	ii 57,500		60,300	8	—	—	H29~R1年度の実績平均に R2年度実績に基づくコロナ禍 による減少率を乗じるととも に、4月25日から5月31日まで の臨時休館を反映して設定。	ii ・世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」のガイダンス 施設としての役割と、新たな機器の導入による付加 価値の上昇。 ・地域との協業による親しまれる博物館施設の創 出。 ・古墳と現代建築、自然のコラボレーションによる博 物館の新たな価値を創造。
							×55,943							
	iii 日本民家集落博物館				8	30,453	iii 32,500		21,900	8	39,000	39,000 *	H29~R1年度の実績平均に R2年度実績に基づくコロナ禍 による減少率を乗じるととも に、4月25日から5月31日まで の臨時休館を反映して設定。	iii ・館内における四季折々の花々の開花状況など、博 物館の魅力向上のための情報をさまざまな媒体で 発信し、快適な空間を創出。
	③「出かける博物館」事業の活性化	館外事業の参加者数		人	5	45,993	49,600		36,500	5	53,900	53,900 *	R2年度実績を踏まえた各博 物館の館外事業参加者数目 標に基づいて設定	・他の博物館・資料館との連携事業の強化。 ・学校や民間企業、地方自治体とも連携し、出 前事業や出張講座、展示事業などを積極的に 展開。
×36,197														

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④効率的な経営 (博物館事業の効果的実施)	利用者一人あたり経費 (事業費/利用者数)		円	4	1,490	1,746 [×2,270]		2,073	4	1,170	1,170 *	R2年度の状況及び4月25日から 5月31日までの臨時休館を反映 した各博物館の利用者数目標に 基づいて設定	・リピーターの確保に加えて、インターネットに よる情報発信を強化し、新たな来館者層の開 拓を行う。
	(効率的経営の推進)	埋蔵文化財調査担当者一人あたりの調査面積		m ²	10	6,365	6,400 ×4,421		↓2,950	10	—	—	R3年度は遺物整理業務が主体 となり、調査面積が大幅に減少 することを踏まえて設定
(安定的財基盤の確立)	当期経常増減額		千円	10	20,048	0 [×▲121,713]		↓▲130,487	10	0	0	事務所撤去に係る減価償却費積 増し分を目標値にすることで、実 質的な収支相償を目指す	・埋蔵文化財調査事業の積極的受託に加え て、柔軟な組織体制を構築。
(民家集落博物館展示民家保存修理のため の自主財源の確保)	賛助金・寄附金		円	4	1,298,521	1,900,000 ×1,028,581		5,900,000	4	1,900,000	1,900,000 *	賛助会員の動向とクラウドファン ディングの目標設定額から設定	・企業等からの賛助金が休止・減額されるなか にあって、広報活動を進め、大規模補修工事 に際してはクラウドファンディングを実施。

【凡例】

- ・☆はR3年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値
- ・*は随意契約による指定管理期間延長につき、R1年度の目標値を援用して記載